

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援 ひばり学園		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 12 月 15 日		～ 令和 8 年 1 月 19 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 名	(回答者数) 1 名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 12 月 15 日		～ 令和 8 年 1 月 19 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1 名	(回答者数) 1 名
○訪問先施設評価実施期間	令和 8 年 1 月 12 日		～ 令和 8 年 1 月 19 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	1	(回答数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 27 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園で児が遊ぶ姿を保護者と共有し、いまの課題や必要な支援についての共通理解が得られる。 実践できる具体的な助言を行う。	保護者との面談や、日々の会話の中でも、丁寧に話を聞いている。 家庭での様子や困りごと、併行通園先での様子等について保護者と話をしている。	具体的な困りごとについては、職員間で検討したり、併行通園先と連絡をとり合い、支援の方向性を考える。
2	子どもの担当療法士や、他の職種（主治医、心理士、相談支援専門員など）からも情報提供を得られる。 小集団でのあそびの中での個別支援について、療法士（PT・OT・ST）と職員間で共有し、多角的な視点で支援を行える。	事前に訪問支援員が、必要な情報を多職種から多面的に集めて、訪問支援に向かっている。 併行通園先への訪問等、積極的に連携している。 例えば、見え方についての個別支援では、シール選びで拡大したシールを二択で選択する方法を実践している。	当園の小集団での支援と個別の支援についてのねらいと併行通園先の大きな集団の中で必要とする支援を、共有する。 口頭の助言だけでなく写真などを用いて伝えたり、訪問の際にはその場で伝えて、支援の方向性を共有する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	実施回数を重ねていけないこと。 業務状況により、訪問時間が十分に確保できていない。	職員間や保護者に事業を周知しないと知らない人が多い。 事業所内、多職種への報告不足。	プリント等何かツールで知らせる。 多職種、保護者に迅速な情報共有を行い、訪問後の支援の変化がわかるようにする。 シートを作り記入する等、効率的な情報共有ができるよう検討する。